



# 三重県立熊野古道センターからのてがみ

"The Letter from Mie Prefecture Kumano Kodo Center"

2017.冬号  
通号 No.45

雪の千枚田

## 日本の棚田

～丸山千枚田を考える～

人々をそう呼んだのです。丸山には、横井戸（小さなトンネル）があり、その奥で水脈に当たっています。鉾山の坑道堀の技術に通じるものがあります。周辺にたくさんあった銅山採掘の技術が転用されているかも知れません。石垣の積み方は、自然石をそのまま積み重ねた野面積みと割石積みです。屋敷まわりと比較すると、棚田の石組みは粗く力強い感じがします。

はたして田の枚数は、何枚あったのか。慶長六年（1601）の浅野氏が検地したときの田は七町一反八畝です。元禄十年（1697）には、2,240枚の田の枚数で1枚平均10坪あまりの広さです。明治三十一年（1898）の測量図によると、2,483枚記載されています。最小の田は、直径45cmくらいで三株の稲が植えられるのみです。平成四年（1992）には530枚まで減少しましたが保存会の努力で現在、1,340枚までに復活しています。

丸山のひな壇造成の総工費は20億円以上、延べ人数約93,600人との試算があります。貞享三年（1686）から元禄五年（1692）にかけての新田開発の願い書から、反あたり約300人を根拠としています。これは約312年の工期となります。面積の半分が中世までに形成され、近世に完成されたとしても長期にわたる想像を絶する営みに感動を覚える理由がここにあると思います。

＜参考文献＞  
・紀和町史 / 上・下巻（紀和町教育委員会）  
・棚田の謎 / 田村善次郎・TEM研究所（OM出版）

段々畑や千枚田の風景は、一朝一夕にできたものでなく日本の農民の何代にもわたる努力の結晶です。だから見る人を感動させ、人の心をあたたく包み込む力をもつものです。

棚田がいつ頃から見られるようになったかは、正確なことはわかりません。飛鳥の地・石舞台付近を支配していた蘇我氏や藤原氏など氏族がよりどころとしていた狭い谷間には、標高差に応じて小区画の棚田になった湿地が拓かれ、平坦地は原野であったようです。「棚田」が文書で初出するのは、高野山文書の応永十三年（1406）であり、高野山安楽川庄高ノ村の谷間にある小区画の水田は、元々は「糯田」と呼ばれていました。室町前期には斜面に階段状に拓かれ、形状が棚田に似ていることから棚田というようになったと記述されています。

さて、丸山千枚田についてその造成技術に視点を当てると黒鍬さんといわれる職人集団が丸山の棚田と約80kmに及ぶ畦の石垣を造ったとされています。黒鍬さんとは、石垣を積む石工職人のことで水路や溝石や石塔を彫り、神社や屋敷、耕地の畦などの石垣を造り、農閑期には北山地方や吉野川上流域、奈良盆地まで出稼ぎをした

熊野古道センター  
-29.12.10  
KODO CENTER

### 連鶴

熊野古道からのてがみ  
45 通目

連鶴は、十年ほど前、熊野市所有のバスの運転手を務めていた時、待機時間が長く時間を持て余していた私に、家が連鶴の本を購入してくれたのが始まりでした。紙の裏に展開図を書き、線に沿って切り込みを入れて順に折っていくのですが、簡単でもありながら形の面白さにのめりこんでしまいました。連鶴は千八百年ごろから桑名市に伝わる無形文化財ですがあまり知られていないようです。実際に四十九種類の鶴を折ってみるのに約二年かかりました。連鶴は長方形の紙でも折りますし、紙の材質により非常に折りにくい物も有りました。折っていくうちに自分で折り方や形、鶴の数など考案できるのも連鶴の面白いところです。熊野市飛鳥町の小中学校で連鶴教室を行っています。生徒たちも全員が集中して折っているため大変静かな授業になります。出来上がった連鶴は敬老会などで米寿にいられたお年寄りにプレゼントされ大変喜んでいただいています。

筆リレー

次は御浜町の塩崎哲哉さん



たきつめ きよし  
滝爪 清さん  
(熊野市)  
趣味で連鶴を折ります。小・中学校で連鶴教室も行っていきます。

八月末に、友達がアメリカオレゴン州の方を案内して連鶴を見に我が家に来てくれました。お土産は連鶴と展開図でした。

と、思う形の紙から鶴が折れ、その形が面白い事や、羽ばたく鶴が折れて羽がうまく動くことに子供たちが喜んでくれるのが楽しみです。折る前の展開図をパソコンで作るなどまだまだ飽きない作業です。



## 花尻薫からの季節のたより No.45

日本の正月には、「松竹梅」や「福寿草」とともに赤い実をつけたヤブコウジが家庭の生け花に使用されていました。

これらは、全国の山地に自生していますが、古くから日本の庭園に下草として栽植されています。果実は晩秋にあざやかな紅色に熟し、寒い冬の間も、そのまま落ちずに残っています。美しいため正月の飾りに使われるようになったのだろろと言われていいます。分布は北海道の奥尻島から本州・四国・九州で、山地の木陰に生える小形の低木です。



ヤブコウジ  
サクランボ科

ヤブコウジの名は藪の中に生えて、葉の形も果実もコウジ（日本名では、観賞用に植えられ、赤い果実をつけるカラタチバナという種類）に似ているからであると言われています。古くはヤマタチバナまたは、アカダマノキともよばれています。ヤブコウジのかわいらしい果実はスイカズラ科のガズミの果実と共に、山の小鳥を生け捕る餌として使用されたので、なつかしい思い出になっています。ヤブコウジは方言も多く、ヤマリンゴ・チンチロモモ・コウジ・コウジリンゴ・ヤマミカンなどがあります。

熊野古道の日のよく照る道ばたに多く、注意して歩くとよく見かけます。

### センター敷地内『夢古道おわせ』へぜひお立ち寄りください！

**お母ちゃんのランチバイキング**  
営業時間: 11:00~14:00  
料金: 中学生以上 .....1,200円  
小学生以上 .....700円  
4歳~小学生 .....300円  
4歳未満 .....無料  
60歳以上 .....1,000円

尾鷲・東紀州の食材をふんだんに使った、地元のお母さんの味です。

**みえ尾鷲海洋深層水「夢古道の湯」**  
深海415メートルから取水された海洋深層水のお風呂。ミネラル分が豊富で保温性に優れているので、湯上り後もポカポカです。

開館時間: 10:00~21:00  
入浴料: 一般 ..... 600円  
65歳以上 ..... 500円  
4歳~小学生 ..... 300円  
4歳未満 ..... 無料

**お風呂がりは、カフェでまったり♪**  
営業時間: 9:00~17:00  
(カフェラストオーダー 16:30)

毎月26日は風呂の日！お子様は通常300円が100円でご入浴できます。

**●お車で越しの方は...**  
尾鷲北IC→坂場交差点を直進→「ホテルピオラ」さんがある交差点を右折→しばらく県道を海沿いに走り、案内看板を右折して到着です。(尾鷲北ICから約10分)

**●電車で越しの方は...**  
JR尾鷲駅下車→ふれあいバス「尾鷲駅」バス停(徒歩1分)、または三重交通「尾鷲駅」バス停(徒歩5分)乗車→「熊野古道センター」下車  
尾鷲駅  
→南紀特急バス「熊野古道センター行」終点下車(約2時間)

### 熊野古道センターニュースレター

#### 熊野古道センターからのてがみ

●2017年 冬号●

- 発行日:2017年12月10日(季刊)
- 編集・発行:三重県立熊野古道センター  
(三重県指定管理者 NPO法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク)
- 編集担当:藤本
- 連絡先:〒519-3625 三重県尾鷲市向井12-4  
TEL 0597-25-2666  
FAX 0597-25-2667  
Mail info@kumanokodocenter.com  
HP <http://www.kumanokodocenter.com/>
- 開館時間:午前9時~午後5時
- 入場料:無料
- 休館日:12月31日、1月1日(その他メンテナンス時休館)

**熊野古道伊勢路 通行止めのお知らせ**  
熊野古道伊勢路の以下の峠道が通行止めとなっております。  
「横垣峠道」  
(南牟婁郡御浜町阪本地区~神木地区)  
※平成29年12月10日現在  
60000171210MF

